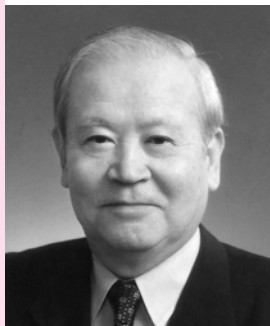


上原 明

社団法人東北経済連合会副会長



東京のラッシュアワーがみえる新潟の山村で考える

東京のラッシュアワーが新潟に見える？「えー ホントー」とお思いでしょうが。実は、本当です。……山梨、長野、新潟県の県境の甲武信ヶ岳こぶしを源流とする千曲川が長野県栄町さかえから新潟県津南町つなんに入ると「信濃川」になります。この両町の名前は、豪雪地帯の代名詞の如く、昨年暮れから本年にかけて、しばらくトップニュースを飾ったことで、おなじみかと存じますが。その信濃川を下って約60キロ、小千谷市（この名前も中越地震で知れわたりました）に、国鉄時代からのJRの水力発電所があります。これは、山手線等首都圏を走る電車の電力の供給源となっております。発電所の巨大な水カメに至るまで信濃川の支流、山合には多くの溜池があります。その溜池の水が、朝の7時30分からどンドン吸い取られ、10時頃になるとカラになり、夕方に向け溜めはじめ、夕方6時から水がなくなっていく。そしてまた明朝に備えて水を蓄えていく。こんな光景が365日休むことなく、子供たちの通学路から眺めることが出来るのです。いまでこそ数は減ったとはいえ東京へ出稼ぎに行っている父や兄の姿を溜池の水面に重ねあわせ、思いを馳せているのです。

東京のエネルギーは地方あって、とりわけ極論すれば、このような中山間地と呼ばれる地域に支えられていると言っても過言ではありません。

新潟県は、1つの発電所としては世界最大の発電量を有する原子力発電を含め、福島県と並んで首都電力の各々20パーセント、計40パーセント強を供給しております。加えて新潟県はJR東日本の首都圏電力の40パーセントを送っております。だからと言って恩を売るつもりはありませんが、国土保全、水源涵養、食糧、そして人材まで広く地方あつての首都東京であることを、今冬の累積降雪量14メートル、最大積雪深4メートル超の雪を眺めながら改めて思った次第です。

一昨年発生した新潟県中越地震は、阪神淡路大地震より死者の数が少なかった理由（推測）で、国の全面的支援が危ぶまれるとの観測が流れましたが、私は地震1ヶ月後に開催された日本商工会議所と財務省の懇談会の際、谷垣大臣に「中越地震に暖かい手を差し伸べるかどうかは、わが国の中山間地を守るのか、切り捨てるのか、国土政策の選択である。」と訴えました。

そして今、国、国民の皆様の手厚いご支援をいただき、今年の降雪前の完全復興に向け頑張っているところです。貴重な紙面をお借りし御礼申し上げます。ペンを擱きます。

（新潟県商工会議所連合会会頭 うえはら・あきら）